

第三卷 第九十五号 第三号・九五三年十月 二 完 日 版 刷

田村明教授略歴・著作目録

経 歴 書

氏 名 田村 明

生年月日 一九三六年七月二五日

現住所 〒二三三二 横浜市港区大豆戸町三二六上六 菊名ハイツ三二六十五 (電〇四五十四三二二〇二六)

本籍地 東京都目黒区柿の木坂二一六一 (東京都生まれ)

学 歴

一九四四年三月 東京都立第一中学校 (旧制、現日比谷高校) 四年終了
一九四七年三月 静岡高等学校理科甲類 (旧制) 卒業
一九五〇年三月 東京大学工学部建築学科 (旧制) 卒業
一九五三年三月 東京大学法学部法律学科 (旧制) 卒業
一九五四年三月 東京大学法学部第三類 (政治コース) 卒業

職 歴

一九五〇年四月～五二年九月 運輸省大臣官房観光部計画課 運輸事務官
一九五四年三月～六二年二月 日本生命本店不動産部不動産課次長

- 一九六三年一月～六八年四月 環境開発センター計画部長
- 一九六八年四月 横浜市企画調整室企画調整部長
- 一九七二年六月 横浜市企画調整局長
- 一九七五年四月～七八年七月 横浜市技監兼企画調整局長
- 一九七八年七月～八二年四月 横浜市技監
- 一九七八年四月～八七年三月 東京大学工学部講師 (大学院・都市工学)
- 一九八二年四月～八二年三月 横浜市立大学商学部講師 (都市経営)
- 一九七六年四月～九七年三月 早稲田大学講師・客員教授 (理工学部大学院)
- 一九八二年四月～九七年三月 法政大学法学部教授 (政治社会学・都市政策)

その間 筑波大学大学院、東京芸術大学、東京女子大学、日本福祉大学、日本大学、東京工業大学などの非常勤講師を勤める。横浜国立大学、東京工芸大学、名古屋工業大学、京都大学、大阪大学などで非常勤講師として特別講義。

その他

工学博士 (東京大学)、地域政策プランナー
 技術士 (地方および都市計画部門)、不動産鑑定士

主要業務

観光政策の立案、国際観光収入の推計

不動産取引実務、不動産関係の契約・協定・事故処理などの法律実務、不動産経営・投資の企画と実施、不動産開発会社の設立、長期投資計画新規開発事業の立案、不動産管理会社の設立・委託など。

全国各地の地域開発計画・都市開発と環境整備計画の立案。一九七〇大阪万博の計画、横浜市の基幹プロジェクト (みなとみらい21、都心強化、ベイブリッジ、港北ニュータウン、金沢埋立、地下鉄、高速道路) を民間事務所にて提案。

横浜市に招かれて提案した基幹プロジェクトの実現の実践に当たり、軌道に乗せる。横浜スタジアム建設の総合的プロデュース。総合的土地利用計画と開発コントロール手法の立案と実施。緑地保全方式と都市農業の実施。公害防止への民間企業との協定締結。アーバンデザインチームの創立と運営、個性的都市の創造、景観保全と創造手法の実践。自治体運営システムの改革。市民参加方式の実験と実践。

都市連合による都市政策 (ごみ処理、自動車公害、物価対策など) の協同実施と国への働きかけ。指定都市企画主管者による協同研究。などを行う。市町村の企画関係者で都市企画会議を組織。

一九八一よりバクダット市の実践マスタープランの策定。日本各地の自治体等のまちづくり計画・アドバイス・講演・研修に当たる。

自治体学会、まちづくり学会、パブリックアットフォーラム等の創立に当たり、それぞれ代表・会長を勤める。日本建築学会都市計画委員長、各種公益法人・団体・学会・公益信託の役員、運営委員。各種団体の研究委員会の委員長・委員、各地の自治体の審議会、委員会などの会長・委員長・委員、環境庁・建設省・通産省・郵政省などの委員を勤める。

日本建築学会から一九七七年度「都市空間の創造的実践」として業績賞受賞。ほかに日本都市計画学会論文賞、国際安全学会賞、桜田会特別功労賞などを受賞。一九九四年「永年にわたる環境に配慮したまちづくりの研究と実践」にたいして環境庁長官特別表彰。

主要な著作・訳書・論文(新しいもの順)

〈著作〉(書き下ろし単行本)

- ・『美しい都市景観をつくるアーバンデザイン』一九九七・三、朝日新聞社

日本の都市は戦災復興と高度成長のなかで急速に個性と美しさを失った。それはなぜなのかを歴史的に考察し、政治経済的にもその原因を明らかにする。現在はようやく都市景観への関心が高まっているが、技術的、デザイン的な問題の前に基本的に考えておくべき原点を検討する。

- ・『イギリスは豊かなり』一九九五・六、東洋経済新報

法政大学から半年の海外研究の機会を与えられ、ロンドンのLSEに籍をおき、各地を回った。短期ではあったが、初めて部屋を借り家内とともに居住者として海外生活をした。当時日本はバブルの絶頂だったが、どうみても教養的な豊かさと実態は違ふ。イギリスの潜在的、実質的豊かさを、論文ではなくエッセイとして纏めた。

- ・『現代都市読本』一九九四・三、東洋経済新報

長年、法政大学では都市政策の講義を担当してきたが、講義は年度により、いろいろ変えてみた。現在ではようやく、都市政策や地域政策の講義も方々の大学で行われている。ここでは、その際にテキストとして利用できるオードックスなものとして、総論だけに終わらず、広範な各論(土地・交通・廃棄物など)に立ち入って纏めた。

- ・『江戸東京まちづくり物語』一九九二・四、時事通信社

私の横浜での仕事が知られている。だが、東京の生まれ育ちである。さまざまな「東京論」が盛んになったが、みるとほとんどは東京をよく知らない人たちが勝手に東京を玩具にしている。東京を論ずるには、歴史面でも内容面でも、これくらいは勉強して論じてほしいと思っていたことをまとめ、それを前提にして私の「東京論」を書いてみた。実質は「江戸東京都市形成史」だが、私はただの過去の歴史ではなく、現在と未来を考える基礎になる意味で書いた。その意味では、「東京未来論」でもあるわけだ。ある歴史家から、「本当は歴史家がこういうもの書くべきだが、誰もまだ書いていなかった」と評価された。当時の私は心臓を患い、やっとの思いで遺言と思って書いたものである。

- ・『都市ヨコハマ物語』一九八九・六、時事通信社

その前に書いた「都市ヨコハマをつくる」は私自身の行った仕事を書いたが、その背景になる横浜の歴史をベースにして、そこに私の仕事を織り込んでみた。横浜のそれぞれの場所に立って、その歴史的な意味と、それが現代にどう活かされたかを見る案内書でもある。

- ・『まちづくりの発想』一九八八・一二、岩波書店

「まちづくり」という言葉は「町づくり」「街づくり」とさまざまだった。この本では、ハードとソフトを統合し、

官僚的ではなく市民自らが個性的な都市をつくるべきだということで、平仮名の「まちづくり」にこだわった。全国の実例を織り込み、全国的に「まちづくり」テキストとして活用されている。

- ・『都市の個性とはなにか』一九八四・一一、岩波書店

一人の個人にとっての都市との出会いの諸相。そこで都市の個性のもつ意味を考える。また、内外の多くの都市の実例から、都市の個性をつくる要因を検出し、個性づくりへのヒントを検討する。

- ・『都市ヨコハマをつくる』一九八三・一、中央公論社

民間から横浜市役所に飛び込んで、実際に行った横浜での経験は極めて密度の濃いものだった。それは在職中は書けないが、辞めて一年たてば実感が薄れる。なんとしても、辞めてから一年以内にその体験を書いておこうとしたものだ。だから私の著書では最も生々しい。そこで得た理論は空論ではなく、実践のなかで生まれ、実際に効果をあげ、他の自治体でも実用可能な手法となっている。ただ残念ながら、人事にわたる点を遠慮したり、紙数の都合で書き切れなかった点も多かった。

- ・『環境計画論』一九八〇・一〇、鹿島出版会

「地域の開発は環境の開発であるべきだ」ということを一九六二年に早くも提唱していた浅田孝の先見性は高く評価されるべきだ。浅田はすでに『環境開発論』を書いていたので、私はそれに対応するいみで、この本を書いた。ただ、この本だけは例外的に巻頭の「環境計画論」以外、他に発表したアソロシイである。

- ・『都市を計画する』一九七七・四、岩波書店

横浜市の企画調整局長として、最も忙しい実務に当たっているとき、書き下ろしの単行本としての処女出版であ

る。著作に当たれるのは土・日だけが、仕事の都合で一箇月も取り掛かれなかった期間もあった。編集者からは「もっと実務の本かと思った」と言われた。忙しい実務中だけに、自分をも客観化するために都市のあるべき姿から考えて見るが必要だと思った。書名も「都市計画」という案で持ち込まれたが、そういう本は多数あるが官庁の土木的計画が中心だ。市民の立場から広くトータルに考える意味での計画の本が必要だということで投票の結果この書名が生れた。当時としては新鮮な書名だった。

〈編・監著〉

- ・『積木の都市・東京』一九九七・六、都市出版社
- ・『自治体の政策形成』一九八九・九、学陽書房

「自治を創る」シリーズ一五巻のなかの一巻。シリーズ全体の企画編集にも携わった。できるだけ実務家を半数以上入れようという趣旨で編集された。論文は初めて書くという人もおり、全面的に書換えをお願いしたのもかなりある。それだけに、著者の選定から始まって、文章まで係わり、ふつうの編著以上の特別な思いがある。

- ・『地域の自立をめざして』共編（三木俊彦）、一九八八・七、公人社
- ・『自治体政策研究の実践』共編（渡辺保男）、一九八五・一一、総合労働研究所
- ・『地方自治体二世紀へむけて』共編（森啓・村瀬誠）、一九八四・一、総合労働研究所

新しい自治体の月刊雑誌をつくろうということから始まった。雑誌の企画は流れたが、その創刊号になる集まった貴重な原稿はを活かして出版したものである。

- ・『文化行政とまちづくり』共編（森啓）、一九八三・三、時事通信社

一九八〇年代は、自治体に新しい意味での文化行政の波が押し寄せた。当時提唱された地方の時代の実体をつくるものでもあった。だが、戸惑いも多い。行政の文化化などの新しい用語も生まれたが、けっきょく文化行政とは、市町村がいかに関性的で質の高い「まちづくり」を行うかという視点で、多くの実例を入れた。Q & A、年表なども入れたために、実務家にとって、よい手引書になっている。

- ・『町づくりの新しい波』一九八二・六、清文社
- ・『横浜——都市計画の実践的手法』一九八〇・四、鹿島出版会

S Dの特別号だが、後に同じものをハードカバーにして出版した。横浜市に企画調整局ができて、ちよどうど十年たったので、その足取りを纏めたものである。ようやく形になったモノが現れてきたが、その出来たモノではなく、新しい創造をつくりだすシステムとヒトが、本当の成果である。

- ・『都市の装置、都市政策講座Ⅷ』共編、一九七三・七、岩波書店
- ・『都市の建設、都市政策講座Ⅶ』共編、一九七三・六、岩波書店

都市問題から都市「政策」に踏み込んだ初めての本格的な講座だ。その後はこれ以上のものは出ていない。当時、私は横浜市の実務のなかにいたが、全体の編集にも関わり、編集会議は毎回極めて活発だった。この二冊を私が担当したが、「都市装置」は新語である。実務と理論、理系と文系の統合をはかった学際的なシリーズになった。

〈監 修〉

- ・『遊惑都市づくりのすすめ』(監修) 一九九三・四、ぎょうせい
- ・『なぎさ—海とともに生きるには』(監修) 九二・三、神奈川原編(共同監修・長州一二)、ぎょうせい

- ・『芸術と地域』(共同監修) 一九九二・三、ぎょうせい
- ・『自治体の土地政策』一九八三・一一、ぎょうせい

〈翻 訳〉

- ・『酸性雨』ロス・ハワード、M・パトリイ(監訳・解説) 一九八六・一〇、新曜社

まだ、酸性雨が日本ではあまり問題になっていない時代で、単行本としてこの書名は最初だと思う。だが、論文を読むとどれも難しい。私は企業と公害の交渉をしたが、そういう経験も活かして、いかに市民にこの問題を分かりやすく理解してもらおうかという見地から、かなり長い解説を書いた。

- ・『アンダーグラウンド』D・マコーレイ、一九八一・三、岩波書店

マコーレイの都市・ピラミッドなどの絵本シリーズの一冊。地下のことに詳しい人を紹介してくれということだったが、建築基礎、上水、下水、地下鉄、電力など全部タテワリで全体を運ぶ専門家がいないことが分かった。けっきょく、私にやれということになり、日本の地下構造物の現況と問題についての解説を書いた。

- ・『市民参加と都市開発』ハンス・スピーゲル、一九七五・一二、鹿島出版会
- ・『人間環境都市』H・パトリフ、一九七二・一二、鹿島出版会
- ・『変動する大都市』(共訳) J・ゴットマン、飛鳥田一雄監修六九、一〇鹿島出版会

〈共 著〉

- ・『動・まちづくり』一九九五、島根自治体学会
- ・『自治体職員能力』一九九四・七、自治体職員能力研究会編、公人の友社

- ・『セゾンの発想』一九九一・一一、リアポート
- ・『まちづくりの視点』一九九二・九、福岡県自治体問題研究所、自治体研究社
- ・『都市の研究』一九八八・三、日本放送出版協会(放送大学印刷教材)
- ・『街づくり発想の時代』一九八六・七、流通産業研究所編
- ・『地域づくりと企業家精神』一九八六・六、ぎょうせい
- ・『世界の広場と彫刻場』八三・七、現代彫刻懇談会編、中央公論
- ・『現代デザイン講座 五(デザインの方法)』一九六九・六、風土社

〈主要論文〉

- ・「都市政策の総合性と都市のグランドデザイン」一九九七・九、東京市政調査会「都市問題」八八巻第九号
- ・「自治体はどこまでやれるか」一九九七・六、公職研「地方自治職員研修」三〇巻六(四〇八号)
- ・「東京の都市形成——積木の都市」一九九七・六、都市出版『積木の都市・東京』
- ・「環境としての景観を考える」一九九七・五、東京ランドスケープ研究所「環境緑化新聞」一九九七・五
- ・「環境に配慮した都市という意味」一九九七・三、埼玉総合研究機構「E3-K」四七号
- ・「まちづくり——市民の役割、役所の役割」一九九七・三「フォーラム・レポート」六八号、豊中市
- ・「新たな地域の開発を考える」一九九七・三、地域開発センター「地域開発」三九〇号
- ・「これからの地域づくりと大学」一九九七・三、法政大学多摩地域社会研究センター「研究年報」第一号
- ・「地方分権から地方主権へ」一九九六・一〇、町村議会議長会「地方議会人」

- ・「いまなぜ環境共生のまちづくりか」一九九六・一〇、日本青年会議所『J.C.まちづくり白書』
- ・「これからのまちづくり」一九九六・八、第七回全国健康長寿のまちづくりシンポジウム(小樽)記録集
- ・「The Planning of a World City」一九九六・四、台北市、国際化戦略国際会議リポート
- ・「まちづくりと時計」一九九六・二、クロック文化研究所『街に生きる時計たち・中巻』
- ・「まちづくりと地方分権」一九九五、島根自治体学会『動・まちづくり』
- ・「草原の虹の国、モンゴルの夢」一九九五・一一、ぎょうせい「判例地方自治」一三九号
- ・「地方職員のありかたについて」一九九五・三、東京都職員研修所「行政管理」三八〇〇号
- ・「横浜——都市ヨコハマ物語」一九九五・一、リバーフロント整備センター「FRONT」
- ・「自治体と用途地域」一九九五・四、東京市政調査会「都市問題」八六巻第四号
- ・「まちづくり学会の創設に当たって——新世代の学会へ向けて」一九九四・九、まちづくり学会「まちづくりの風」創刊号

- ・「都市の個性」一九九四・一〇、全国市長会「第五六回全国都市問題会議」
- ・「豊かさゆとりを実感できたまち」一九九四・一〇、倉吉市
- ・「環境にやさしいまちづくり」一九九四・七、全国アメニティ推進協議会「うるおい」会報第二号
- ・「自治体職員に求められる資質と能力」一九九四・七、公人の友社『自治体職員の能力』
- ・「歴史的景観の今日的意義」一九九四・三、全国市長会「市政」第四三号
- ・「色彩景観は市民の共同作品」一九九四・三、都市文化社、公共の色彩を考える会編『まちの色彩計画』

田村明経謹書

- ・「新しい時代の都市計画と交通機関」一九九四・三、四、日本交通協会「汎交通」
- ・「二二世紀のまちづくり」一九九三・一一、公職研『地方自治職員研修臨時増刊第四四号〈地方自治、二二世紀の構想〉』
- ・「旅の昨日・今日・明日」一九九三・七、日本交通公社「観光文化」一〇〇号
- ・「椅子のない電車」一九九三・四「東京人」第六七〇号
- ・「自治体字の可能性」一九九三・三、自治体学会編、自治体学年報第八卷『自治体で生きる』良書普及会
- ・「コミュニティ形成の方向」一九九三・三、地域政策研究会「地域政策」第一〇巻
- ・「都市の個性」一九九三・三、札幌市都市研究室「都市問題調査報」
- ・「理想の都市とは」一九九三・三、日本航空宇宙産業会「翼のある風景」第三二号
- ・「宅地化農地の計画的開発の進め方」一九九三・二、都市農地活用支援センター
- ・「リサイクル都市・江戸」一九九三・一、三機工業「Hermony」第五巻
- ・「文化的まちづくり」一九九三・二、愛知県市町村自治研究会「市町村あいち」一〇二号
- ・「都市行政とアーバンデザイン」一九九二・二、行政管理研究センター「季刊行政管理研究」六〇号
- ・「まちづくりと住民参加」一九九二・九『まちづくりの視点』福岡県自治体問題研究所、自治体研究社
- ・「自治体学会―実践のなかに新たな理論を求めて」一九九二・四、東京自治問題研究所、「月刊東京」
- ・「カベへの挑戦―地域とのかかわり」一九九二・七、リプロポット『セゾンの発想』
- ・「〈豊かな住まい〉を基盤にする国土・都市づくりの提唱」一九九二・三、住宅金融公庫「住宅金融月報」四七二

り

- ・「地域づくりの新たな展開を考える」一九九二・二、滋賀総合研究所
- ・「個性あるまちづくり」一九九〇・一〇、環境庁「第十一回快適環境シンポジウム」報告書
- ・「まちづくりをどうすすめるか」一九九〇・七、高槻市地方自治研究センター「自治研究18号」
- ・「メッシュ型地方分権がいい」一九九〇・六、日本青年会議所「五〇億」一九九〇・六
- ・「これからのまちづくり」一九九〇・六、北海道開発局「開発セミナー報告書」
- ・「都市づくりと第三セクター」一九九〇・一、日本宅地開発協会「宅地開発」二二二号
- ・「成熟社会の国土づくり―メッシュ構造への転換急務」一九九〇・一、二〇、日本本経済新聞「経済教室」
- ・「都市のなかの建築」一九八九・二、営繕協会「公共建築」第二三三号
- ・「まちづくりの発想」一九八九・二、日建設計「第三回都市経営フォーラム」
- ・「住む人に魅力ある都市を」一九八九・一・四「毎日新聞」
- ・「まちづくりの未来像」一九八九・一〇、大阪府都市整備技術センター
- ・「市電の可能性」一九八九・一〇「運輸と経済」一九八九・一〇月号
- ・「市民とまちづくり―魅力ある都市をめざして」一九八九・一〇、法政大学「法政」
- ・「自治体における企画調整機能のありかた」一九八九・九、学陽書房『自治体の政策形成』
- ・「政策主体としての自治体」一九八九・九、学陽書房『自治体の政策形成』
- ・「生き生きした市民と自治体を育てる都市づくり」一九八九・六、全国市長会「市政」三八巻六号

- ・「未来の都市をめざして」一九八九・三、科学技術庁「科学技術研究所調査研究資料 講演録」一〇
- ・「余暇と地域開発を考える」一九八九・二、静岡県民生活局生活文化室
- ・「西ドイツに見る分散型社会」一九八九・一、営繕協会「公共建築」一二三号
- ・「まちづくりの思想——都市とごみをめぐって」一九八八・九、思想の科学社「思想の科学」第一〇七号
- ・「ヨコハマのまちづくりから」一九八八・九、日本立地センター「地球のひろば」第六巻、九、一〇号
- ・「未来の都市をめざして」八八・六、都市問題研究会「都市問題研究」四〇巻六号
- ・「遷都論のまえに軽都と割都が必要」一九八八・五、ぎょうせい「地方財務」
- ・「都市のシンボル——チベットで考える」一九八八・三「新建築」一九八八・三月号
- ・「まちづくりの思想」一九八八・三、高知市「文化高知22」
- ・「都市政策の課題」一九八八・三、日本放送出版協会『都市の研究』（放送大学印刷教材）
- ・「都市経営と自治」一九八八・三、同右
- ・「都市の拡大と都市の分散」一九八八・三、同右
- ・「市民参加と〈まちづくり〉」一九八八・三、同右
- ・「都市のルールと都市のデザイン」一九八八・三、同右
- ・「いま、まちにとって文化とは」一九八八・二、総社市文化事業財団
- ・「自治体ヘッドハンティングの有効性と問題点」一九八七・一一「地方自治職員研修」八七年、一一月号
- ・「Deconcentrating Tokyo, Reconfiguring Japan」一九八七・一〇、ASAHI SINBUN “JAPAN QUAR-

TERLY: Vol. XXXIV, No4

- ・「国際化と都市づくり」一九八七・一〇、全国市長会「第四九回全国都市問題会議」
- ・「自治体学会第一回総会・研究会報告」一九八七・九、時事通信「地方行政」九月一六日号
- ・「とくしま自治体会議の意味」——地域の自立をめざす全国的動向、一九八七・九
- ・「巨大都市への対応」一九八七・九、首都圏懇話会「首都圏公報」二二巻二号
- ・「創造力ある行政をめざして」一九八七・九、近畿ブロック知事会
- ・「ストックホルムの土地政策」一九八七・九、土地住宅問題研究センター「土地住宅問題」一五七号
- ・「土地政策の基本方向」一九八七・八「地方自治職員研修」八七年八月号
- ・「国際化の進展と地球時代の都市」一九八七・七、都市問題研究会「都市問題研究」
- ・「自治体学会の発足」一九八七・六「地方日報」
- ・「ソフト化時代の地域おこし」一九八七・五「観光文化」第三六〇号
- ・「ミルトンキントゥスにニュータウンを考える」一九八七・四、竹中工務店「approach」一九八七 spring
- ・「ヒューマンスケールを考えたまちづくり」一九八七、春、第一住宅建設協会「CITY」第八号
- ・「旅について」一九八七・二、法政大学「新しい友へ」
- ・「観光と都市行政」一九八六・一〇、全国市長会「第四八回全国都市問題会議」
- ・「酸性雨——エネルギー文明のゆくえ」一九八六・一〇、新曜社『酸性雨』ロス・ハワード、M・パトリイ、田村明監訳

- ・「新しい街づくりの考え方」一九八六・七、流通産業研究所『街づくり発想の時代』
- ・「自治体における企業性の導入」一九八六・六、ぎょうせい『地域づくりと企業家精神』
- ・「御堂筋をつくった大阪の“民活”」一九八六・春、川崎製鉄『鈴』一三三号
- ・「集中強めた“官製分譲政策”」一九八六・五『日経ビジネス』夏季増刊号
- ・「中央政府と自治体間の政治手続」一九八六・三、日本政治学会『政治学年報一九八五—現代日本の政治手続』岩波書店
- ・「都市と個性」一九八六・三、都市問題研究会『都市問題研究』二八巻三月号
- ・「住民参加こそ公共事業推進の基礎」一九八六・二、国政調査会『月別政策』
- ・「都市の快適環境（アメニティ）の創造を求めて」一九八六・二、都市計画協会『新都市』一九八六・二
- ・「文化行政に望まれること—文化施設の視点から」一九八六・一『公明』二八八号
- ・「地方自治体の新しい役割—地域文化を創り育てるまちづくりを」一九八六・一『建築とまちづくり』
- ・「自治体土地政策の理念と手法」一九八五・一〇、東京市政調査会『都市問題』一九八五・一〇
- ・「国際化と大都市」一九八五・九、有斐閣『ジュリスト増刊総合特集』四〇号
- ・「都市景観—都市空間を主張するための人と組織づくり」一九八五・九『ストリートリア』第三号
- ・「都市に個性美を—風土と歴史を生かして」一九八五・六・七『読売新聞』
- ・「都市景観整備のための都市計画とアーバンデザイン」一九八五・二、日本都市計画協会『新都市』二三四号
- ・「公共空間とデザイン」一九八五・一、産業デザイン振興会『グッドデザイン一九八四』

- ・「都市の住まい—住のエキステリアとしての都市」一九八四・九、朝日新聞社『広告月報』一九八四・九
- ・「住環境における環境価値の変遷」一九八四・五、環境情報科学センター『環境情報科学』一三巻三号
- ・「実践的“まちづくり”論」一九八四・三、不動産研究所『不動産研究のしおり』第七号
- ・「まちづくりと産業振興の方向」一九八四・二、日本立地センター『産業立地』一三三・二
- ・「二一世紀へ向けての社会経済状況の展望と環境行政への方向」一九八四・二、環境調査センター『環境研究』四七号
- ・「都市における土地の高度利用」一九八四・一、有斐閣『ジュリスト増刊特集』三三三号
- ・「地方都市の計画論」一九八三・一一、土木学会『土木計画学講習会テキスト』
- ・「地方都市の計画論」一九八三・一一、土木学会『土木計画学テキスト』
- ・「住民参加と地方自治体の役割」一九八三・七『月別政策—日本の公共事業』
- ・「都市美創出のためのデザインコントロール手法」一九八三・七、総合研究開発機構
- ・「都市と彫刻」一九八三・七、現代彫刻懇談会編、中央公論『世界の広場と彫刻』
- ・「文化行政と“まちづくり”」一九八三・三『文化行政とまちづくり』時事通信社
- ・「都市デザインの計画主体」一九八三・三、日本建築学会『建築雑誌』八三・三
- ・「自治体機構とプランナー」一九八三・一、地域開発センター『地域開発』一三三〇号
- ・「公共事業と地域化」一九八二・二、全日本建設技術協会『月別建設』
- ・「街づくりの政治社会学」一九八二・一一、トヨタ自動車『自動車とその世界』

- ・「文化行政に問われているもの」一九八二・九、地方自治センター「地方自治通信」一五四号
- ・「企画調整部門のありかた」一九八二・八、公務職員研修協会「職員研修」一八六号
- ・「都市・建築・広場——現代都市の広場創出手法」一九八二・六「建築画報」第二六一号
- ・「自治体の役割と市民自治」一九八二・六「横浜市港北区まちづくりシンポジウム記録」
- ・「都市・自治体行政の総合化——まちづくりの総合システムの確立」一九八二・六、有斐閣「ジュリスト増刊総合特集——都市の魅力」二七号
- ・「歩行者空間整備の意義とその手法」一九八二・四、鋼材クラブ「都市開発セミナー」
- ・「個性あるまちづくりへ」一九八二・四、東京電力「地域開発ニュース」一六二号
- ・「まちづくりの実践」一九八二・三「野田市長長期構想講演集」
- ・「都市計画の歴史」一九八二・三、NIRA
- ・「自治体の環境管理計画」一九八二・三、東京市政調査会「都市問題」七三巻三号
- ・「まちづくりと行政——技術と量から文化と質へ」一九八二・二、地域社会計画センター
- ・「現代都市空間と文化」一九八二・二、建設広報協議会「建設月報」一二月号
- ・「成熟社会における首都改造の方向」一九八二・二、「地域計画学会発表」
- ・「自治体による宅地化開発指導要綱の成立までの国の宅地開発施策に関する研究」一九八二・二、日本都市計画学会「学術研究発表会論文集」
- ・「北の生活文化」一九八二・二、北海道生活環境部「北の生活文化シンポジウム報告書」

- ・「メソポタミアで思うこと」一九八二・二、環境庁「かんきょう」
- ・「金沢シーサイドタウンのアーバンデザイン構想」一九八二・二〇「都市住宅」
- ・「地方自治体の行財政改革の方向」一九八二・九、日本経済新聞「季刊現代経済」四四号
- ・「市民の共同財産としての土地（巻頭意）」一九八二・八「土地住宅問題」八四号
- ・「地域開発と地方行政」一九八二・七「日刊建設工業新聞」
- ・「神戸ポートアイランド都市計画」一九八二・五「日経アーキテクチュア」
- ・「行政の文化化」一九八二・五、松下圭一・森啓編『文化行政』学陽書房
- ・「自治体の政策プランナー」一九八二・四、有斐閣「ジュリスト増刊総合特集」三号「地方の時代と公務員」
- ・「自治体の役割と市民の自治」一九八二・三、横浜市「調査季報」
- ・「今後の都市開発のありかた」一九八二・三、鋼材倶楽部「message」
- ・「自然・緑・環境——子供たちの住む環境としての都市づくり」一九八二・三「NIRA」広報室「月刊NIRA」
- ・「都市の顔づくり」一九八二・二、北九州市企画局行政管理課「いちいがし」二六号
- ・「宅地開発における開発指導要綱の成立過程とその基礎的都市環境整備への効果に関する総合的研究」一九八〇・二二
- ・「都市に緑を」一九八〇・二二、日本自然保護協会「自然保護」二二三号
- ・「自治体の文化行政」「行政の文化化」一九八〇、神奈川県文化室『文化と行政を考える討論集会記録——行政の文化化をどう進めるか』

- ・「アーバンデザインと都市行政—横浜市」一九八〇・九、「地域開発」八〇年九月号
- ・「都市づくりの基礎条件」一九八〇・八、日本評論社「経済評論」八〇・八
- ・「これからの都市づくりと歩行者空間」一九八〇・五、地域科学研究会『ショッピングモール制度編』
- ・「地方の時代の都市デザイン」一九八〇・四、岩波書店「世界」八〇・四
- ・「国際化時代と横浜」一九八〇・三、横浜市「調査季報」
- ・「八〇年代の都市経営」一九八〇・三、「湘南広域都市行政協議会研修会講演録」
- ・「環境破壊の防止と保全」一九八〇・一、東京ドイツ文化センター、東京新聞、「日独シンポジウム」
- ・「都市の活力」一九八〇・一、都市問題研究会「都市問題研究」三三巻二号
- ・「都市の地下」一九八〇、横浜市都市科学研究室「調査季報」
- ・「環境の防衛から創造へ」一九八〇・一、日本建築士連合会「建築士」八〇・一
- ・「バルコニーに花を」一九七九・一〇「サンデー毎日」七九年一〇月一四日号
- ・「西ドイツにみる分散型社会」一九七九・一〇、NIRA広報室「月刊NIRA」一〇月号
- ・「都市計画法の理念と実践」一九七九・八、東京市政調査会「都市問題（新都市計画法十年の軌跡）」七九・八
- ・「都市空間創造への総合的実践」一九七九・八、日本建築学会「建築雑誌」
- ・「日本の都市行政の可能性と限界」一九七九・七、Autonomie und pulanungskonzept in Japan) 国際住計画研究所「都市計画の策定と手法」タルムシュタット、日独都市計画会議記録
- ・「八〇年代の都市経営」一九七九・一〇、湘南都市行政協議会

- ・「地方の時代の意義」一九七九・一〇、宅地開発協会「宅地開発」六四巻
- ・「地域の個性とまちづくり」「まちづくりはドラマ」一九七九・七、「村上市まちづくりシンポジウム記録集」
- ・「都市経営としての都市交通対策」一九七九・六「交通安全学会誌」第五巻第三号
- ・「産業立地と地域総合行政」一九七九・五、日本立地センター「産業立地」七九・五
- ・「町づくりと文化」一九七九・四、首都圏整備協会「首都整備」七四号
- ・「都市計画と環境の質—見えない都市の見える部分」一九七九・三「a t u」七九年三月号
- ・「横浜の都市づくりと港」一九七九、横浜市経済局「横浜経済と市民生活」
- ・「歩行者道整備について—横浜市資料集」一九七九「交通工学講習会資料」
- ・「横浜大通り公園計画について」一九七八・一二、「建築文化」五八六号
- ・「横浜の水際線利用」一九七八・一二、竹中工務店「アプローチ」六四号
- ・「新幹線のルート—小火輪車」一九七八・一一、横浜市市民局「市民グラフ」
- ・「都市経営のボトルネック」一九七八・一一、国際交通安全学会「都市問題研究会」
- ・「横浜の都市建設と首都圏計画の諸問題」一九七八・六、日本都市計画学会「都市計画」二〇二号
- ・「横浜の開港と町づくり」一九七八・六、横浜市都市科学研究室「調査既報」五八号
- ・「改正法・日影規制に異議」一九七八・五「日経アーキテクチュア」七八・五・一
- ・「道路と土地」一九七七・一一、高速道路調査会「高速道路と自動車」七七・一一
- ・「観光国土づくり」一九七七・一〇、日本交通公社「観光と文化」六号

- ・「都市像の本質」一九七七・一〇、都市問題研究会「都市問題研究」二九巻一〇号
- ・「中央画一化から地域個性化へ」一九七七・九、日本建築士連合会「建築士」九号
- ・「新地域主義について」一九七七・七、常陽産業開発センター「ニュー茨城」八一巻七号
- ・「ふるさと」とはなにか」一九七七・五・四、「毎日新聞」
- ・「地域社会と企業」一九七六・一〇、「日本経済研究センター会報」二八二号
- ・「市民の技術からの出発を」一九七六・一一、土木学会「土木学会誌」六一巻一一号
- ・「都市経営を考える」一九七六・七、日本モノレール協会「モノレール」二九号
- ・「都市経営論と自治」一九七六・六、横浜市都市科学研究室「調査季報」五〇号
- ・「都市における建築の外部空間」一九七六・二『外部空間のディテール』彰国社
- ・「自治体の文化行政・自治体の文化化」一九七六、神奈川県『討論・行政の文化化をどうすすめるか』
- ・「都市行政から都市経営へ―都市経営論序説」一九七五・一二、岩波書店「世界」七五・一二
- ・「アーバンデザインと自治体」一九七五・九、横浜市企画調整局「調査季報」五〇号
- ・「都市づくりと市民参加」一九七五・九、国土庁「人と国土」七五・九
- ・「デザインを公共の場に」一九七五・七、日本インダストリアルデザイン協会「インダストリアルデザイン」七七号
- ・「住宅公団―自治体との調和を」一九七五・六・二七「産経新聞」
- ・「国土経営と自治体」一九七五・六、日本科学技術連盟「ENGINEERS」七五・六

- ・「治水と河川環境とまちづくり」一九七五・六、地域交流センター『河川を知る』
- ・「地方公共団体における都市住宅対策と展望」一九七五・一、住宅普及協会「住宅金融月報」二七七号
- ・「自治と他治」一九七五・一、有隣堂「有隣」第八六号
- ・「国土利用の新方向―土地問題と国土利用計画法」七四・一〇、日本地域開発センター、「地域開発」一九七四・一〇
- ・「都市づくりの改革と実践」一九七四・八、大成出版社、『都市自治の構図』
- ・「現代都市住宅政策論」一九七四・六、日本住宅協会「住宅」一三三号
- ・「住民にとっての地域開発とはなにか」一九七四・四、東洋経済新報社「東洋経済臨時増刊号」
- ・「自治体と住宅行政」一九七四・四、「住宅設計」四九号
- ・「京浜工業地帯の防災遮断帯計画の背景と理念」一九七四・三、建設省・横浜市
- ・「自治体における長期計画の条件」一九七四・二、市民社『都市づくりへの思索』
- ・「こみコミュニティ論」一九七四・二、日本評論社「経済評論」七四・二
- ・「自治体行政における長期計画の条件」一九七四・二、市民社『都市づくりへの思索』
- ・「公共政策と自治体」一九七三・一一「日本経済研究センター会報」二二二号
- ・「国土計画のワナ」一九七三・一一、市民編集委員会「市民」一一号
- ・「制御と誘導」一九七三・三、岩波書店『都市の経営、都市政策講座Ⅳ』
- ・「日照権と都市生活」一九七三・一〇、日本評論社「セミナー法学全集四 民法Ⅴ」

- ・「都市の装置と市民生活」一九七三・七、岩波書店『都市の装置、都市政策講座Ⅷ』
- ・「都市の計画と建設の課題」一九七三・六、岩波書店『都市の経営、都市政策講座Ⅶ』
- ・「金沢地先開発計画」一九七三・三、彰国社『建築術Ⅰ』
- ・「土地利用計画と地価」一九七二・九、日本評論社『経済セミナー』二〇七号
- ・「土地利用計画と市民参加」一九七二・九、鹿島出版会『土地問題講座四』
- ・「計画行政における市民参加」一九七二・九、日本都市計画学会『都市計画』七二号
- ・「宅地開発と私権の制限」一九七二・九、横浜市企画調整局『調査季報』三四号
- ・「大都市への過度集中問題について」一九七二・六、地域開発センター『地域開発』
- ・「港北ニュータウンの環境計画」一九七二・六、日本建築学会『建築雑誌』七二・六
- ・「都市とはなにか」一九七二・三、横浜市『労働経済』二六号
- ・「自治体における長期計画の条件」一九七二・一、町田市『都市づくりを考える』
- ・「地方自治からみた住宅公団の評価と展望」一九七二・五、日本住宅協会『住宅』
- ・「現代都市と土地問題——土地・環境・シビルミニマム・都市自治体」一九七二・四、有斐閣『シユリスト臨時増刊』特集土地問題』四七六号
- ・「自治体の政策アランナー」一九七二・四、有斐閣『シユリスト臨時増刊』地方の新時代と公務員』
- ・「南米都市論」一九七二・二、横浜市大経済研究所『経済と貿易』一〇二号
- ・「自治体と都市計画」一九七〇・一一、日本評論社『別冊経済評論』

- ・「日本鋼管扇形移転の公害防止」一九七〇・一一、横浜市企画調整局『調査季報』一七
- ・「住民自治と自治体」一九七〇・一〇『都市生活』二六号
- ・「公害——この恐るべき人類の敵」一九七〇・八、政治月報社『月刊政策』五九号
- ・「環境の質と公害」一九七〇・五、日本評論社『別冊経済評論』
- ・「都市と自然——都市建設の生態論」一九七〇・三、横浜市大経済研究所『経済と貿易』一〇二号
- ・「建築の寿命と建築経済」一九六九・一一、日本建築学会『建築雑誌』
- ・「横浜市の都市計画」一九六九・七、不動産協会『不動産経済四周年記念号』
- ・「港北ニュータウンの意義」一九六九・四、『首都圏公論』
- ・「再開発行政の進め方——総合行政体制の確立」一九六九・一、有斐閣『シユリスト臨時増刊号』二月号』
- ・「郊外宅地開発の基本方向」一九六八・一〇、横浜市企画調整局『調査季報』一九号
- ・「自民党・社会党の都市政策批判」一九六八・一〇、風土社『デザイン批評』七号
- ・「未来の国土」一九六八・九、講談社『現代教養百科辞典』三
- ・「都市工学からみた過密対策」一九六八・六、横浜市大『都市問題講座』二
- ・「公園行政への期待と提案」一九六七・一一、横浜市調査室『調査季報』一七号
- ・「台風に弱い住宅地一覽」一九六七・一〇、中央公論社『婦人公論』一〇月号
- ・「遊びの構造」一九六七・七、風土社『デザイン批評』二号
- ・「万博に関する五章」一九六七・六、荻森開発センター『F』一三三号

- ・「地価戦争終結のための提案」一九六六・一一、中央公論社「中央公論」六六・一一月
- ・「地価を食う錬金術師たち」一九六六・八、中央公論社「中央公論」六六・八月
- ・「社会開発と環境計画」一九六五・六、「社会と建築」六五・六月号
- ・「都市は市民のためにある」一九六五・四、毎日新聞社「毎日グラフ」
- ・「都市問題と建築家」一九六五・三、国際建築社「国際建築」六五・三月号
- ・「最高学術機関としてのソ連邦建設建築アカデミーについて」一九六四・一一、日本建築学会「建築雑誌」六四・一一、九四六号
- ・「環境の開発」六四・七、日本建築学会「建築雑誌」一九六四・七
- ・「ヨーロッパにおける自然改造と自然保護」一九六四・四、山海堂「建設者」二号
- ・「従業員住宅の調査と管理の仕方」一九六二・九、「企業美術」一〇月号
- ・「地域計画機関のあり方について」一九六二・七